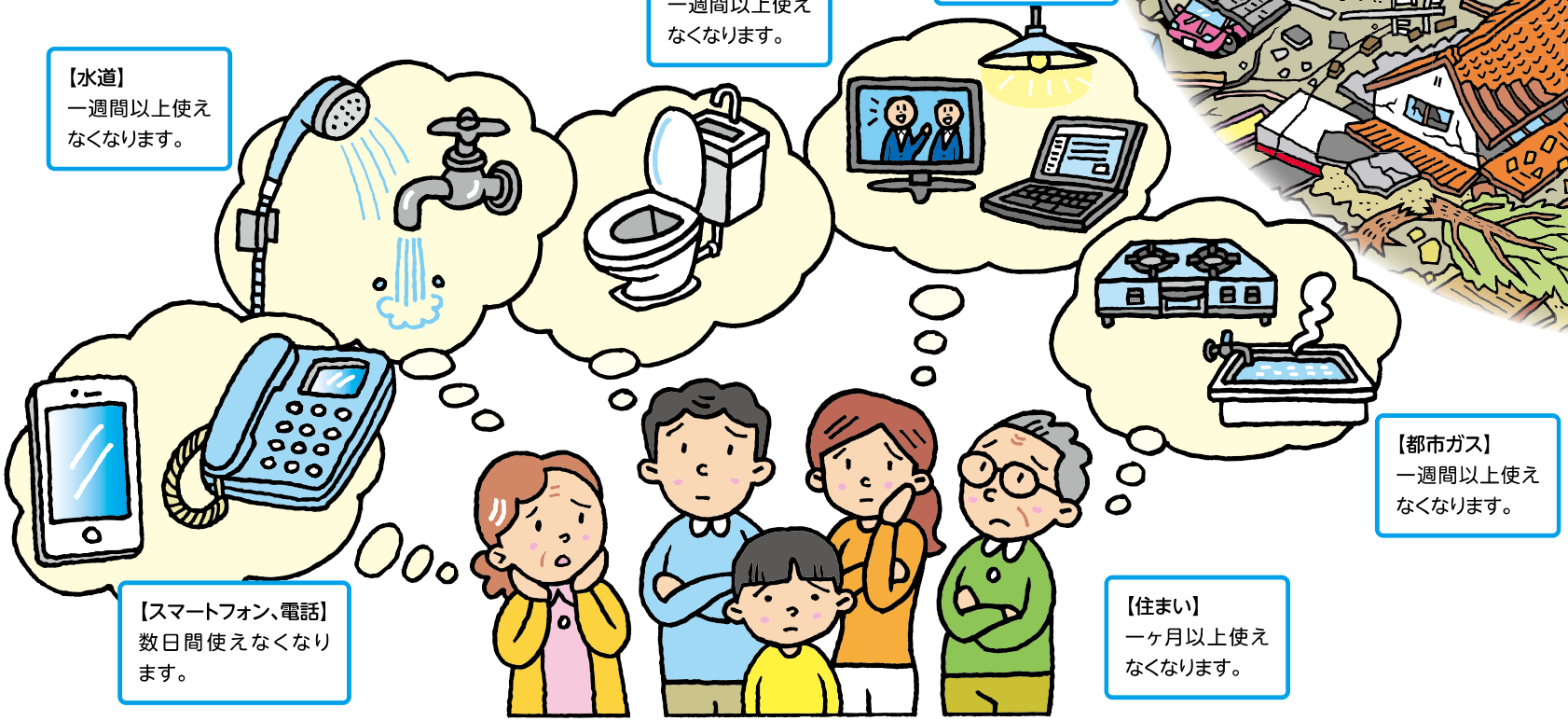
岡山県の災害リスクといざという時の行動

1 地震

大地震の恐怖

●もし大地震が起きたら、
日常生活にも
大きな影響が予想されます。
…最悪の場合



●南海トラフ地震とは

駿河湾から日向灘沖までのプレート同士が接する海底の溝状の地形を形成する区域を「南海トラフ」といいます。
この南海トラフ沿いのプレート境界域を震源とする大規模な地震が「南海トラフ地震」です。
南海トラフ地震の発生には周期性があり、昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから約80年が経過していることから、南海トラフにおける次の大規模地震の発生時期が迫っていると言われています。

●南海トラフ巨大地震で想定される県内の被害(最大値)

		地震動により堤防等が機能しなくなる場合	津波が越流すると堤防等が機能しなくなる場合
建物被害(全壊・焼失棟数)	揺れによる	約22,000棟(うち、揺れによる全壊棟数3,240棟)	
	津波による	9,470棟	942棟
死者数	揺れによる	428人	
	津波による	3,585人	53人
負傷者数	揺れによる	7,369人	
	津波による	709人	211人

岡山県の災害リスクといざという時の行動

地震発生時の行動（家庭の場合）

※これは一例です。
身の危険を感じたら、
直ちに避難しましょう。

0 緊急地震速報発表

●テレビやラジオなどで放送されるほか、携帯端末などへ発信されます。

1 頭を守り、安全確保

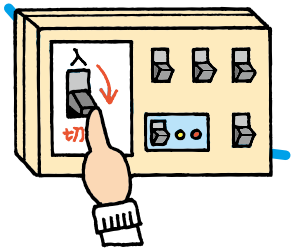
●クッションやバッグ等、身近にあるもので頭を守る。
●机の下などにもぐり、机の足を持つ。
●あわてて外に飛び出さない。

2 逃げ道を確保する

●揺れが収まったら、ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。
●ガラスの破片等が落ちているので、靴やスリッパを履いて移動する。

3 火を止める

●火を使用中なら、火を消しガスの元栓を閉める。（無理して火を消そうとしない。揺れが収まってから火を消す。）
●出火していたら、初期消火を行う。



4 電気のブレーカーを切る

●漏電などによる火災を防ぎます。

5 避難する

●非常持出品を持って指定の避難場所へ移動する。
●外へ出る際には落下物に注意する。
●車は使用しない。
●落ち着いて、忘れ物がないように注意する。
●戸締まりをしっかり行う。

避難する際の注意点

●事前にハザードマップにより自宅や職場周辺の災害リスクを把握し、避難先への避難経路を確認する。
●海辺や大きな河川の周辺にいる時は、真っ先に避難を。
●津波注意報・警報を確認する。
●津波警報発令中は高台やビルなどの頑丈な建物に避難し、絶対に低地に戻らない。

オフィスなどの場合

●コピー機、パソコンなどOA機器や什器などが移動してきたり、倒れたりして危険です。机の下に潜り、頭を守りましょう。
●地震が収まったら、決められた避難マニュアルに従い行動しましょう。

エレベーターの場合

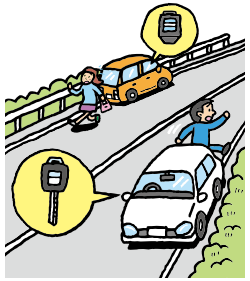
●全ての階のボタンを押して、最初に止まった階で降りましょう
●閉じ込められたら非常用のインターフォンで連絡しましょう。

市街地の場合

●窓ガラスや看板などの落下物に気をつけましょう。
●カバンなどで頭を守りながら、安全な場所に移動しましょう。

運転中の場合

●ハザードランプを灯して、ゆっくりと左側に停車しましょう。
●車から離れるときには、ドアをロックせずにカギを付けたままにしましょう。
●車検証を持って避難しましょう。



岡山県の災害リスクといざという時の行動

2 風水害・土砂災害

平成30年7月豪雨
記録的な大雨により、堤防の決壊や越水、内水氾濫による浸水、土砂災害が発生し、倉敷市をはじめ、県内各地で甚大な被害が発生しました。

平成30年7月豪雨災害
倉敷市真備町における浸水被害

平成21年8月 美作市
台風第9号による土砂災害

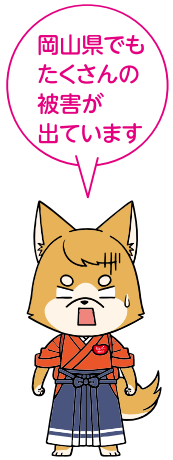
提供：RSK山陽放送

令和元年9月 新見市
局地的豪雨による被害

平成2年9月 瀬戸内市（旧長船町）　台風第19号による浸水被害

平成16年8月 笠岡市　台風第16号による高潮被害

平成16年10月 玉野市　台風第23号による土砂災害



山間部や山のふもとに住んでいる方は注意!

岡山県の土砂災害

岡山県には崩れやすい性質をもつマサ土が広く分布し、台風等の豪雨により、たびたび土砂災害が発生しています。平成16年10月の台風第23号では玉野市、平成21年8月の台風第9号では美作市において、大規模な土砂災害が発生しました。土砂災害警戒区域等では、特に土砂災害のリスクが高く警戒が必要です。

海岸沿いや県南の低平地に住んでいる方は注意!

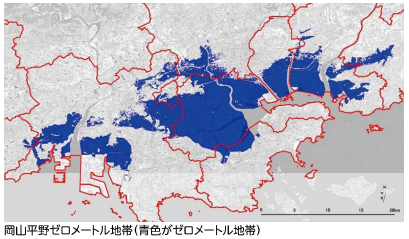
岡山県の高潮被害

台風の接近時には、沿岸部では高潮への警戒が必要です。平成16年8月の台風第16号では大潮期間の満潮と重なり、宇野港で観測開始以来最も高い潮位（255㎝）を観測し、沿岸部で甚大な被害が発生しました。

河川沿いや県南の低平地に住んでいる方は注意!

岡山県の浸水被害

岡山平野の多くは、洪水で上流から運ばれた土砂が堆積してできた低平地や干拓地からなり、ゼロメートル地帯が広く分布しており、河川が氾濫すると大きな被害につながります。ゼロメートル地帯以外の低平地でも、浸水被害は発生する可能性があるので注意が必要です。



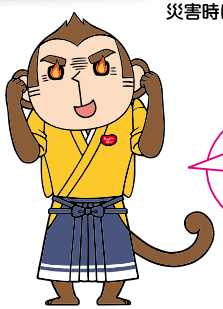
岡山平野ゼロメートル地帯（青色がゼロメートル地帯）
出典：国土交通省 岡山河川事務所ホームページ

岡山県の災害リスクといざという時の行動

台風情報が発表されてから避難するまでの流れ

早め早めの行動が命を守る。

テレビ、ラジオ、気象庁のホームページなどで最新の防災気象情報を収集するように心掛け、時間を追って段階的に発表される「注意報」や「警報」、「避難情報」や「警戒レベル」を活用して、早め早めの安全確保行動をとるようにしましょう。
避難情報が出たり、危ないと感じたりした時は、直ちに避難しましょう。
いざという時のために、日頃からハザードマップにより災害リスクを確認し、災害時に「いつ」「何をするのか」を時系列に整理しておきましょう。



「自分だけは大丈夫」と安易に判断しない!
早め早めの避難を!

1 危険箇所や避難所の確認

日頃から各市町村のハザードマップで周辺の危険箇所や避難所を確認しておきましょう。
また、備蓄もしておきましょう。

2 非常持出品の用意

停電・断水や避難に備えて、早めに非常持出品の用意をしておきましょう。

5 避難情報が出たらすぐに行動

避難情報が出たら、速やかに行動!
「まだ大丈夫」と判断せずすぐに避難をしてください。
万一避難する余裕がない場合は、屋内安全確保を。

屋内安全確保

災害から身の安全を確保するために最も望ましい方法は、災害リスクのある区域からの立ち退き避難ですが、ハザードマップ等で自ら自宅・施設等の浸水想定等を確認し、上階への移動や高層階に留まることなどにより、身の安全を確保することが可能な場合は、屋内のより安全な場所に避難しましょう。

※P13参照

3 最新情報を随時確認

テレビ、ラジオ、インターネット、防災アプリ、防災情報メール等で常に最新情報を確認しましょう。

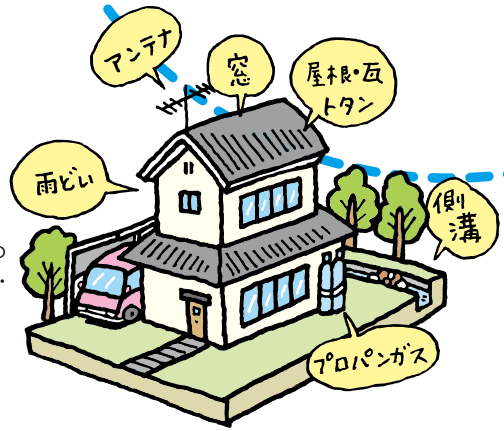
主な防災気象情報

<警報・注意報>
●注意報…災害が起こるおそれがあるとき
●警報…重大な災害が起こるおそれがあるとき
●特別警報…数十年に一度の豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっているとき

<土砂災害警戒情報>
大雨警報が発表され、土砂災害の危険度が高まった場合に、気象台が都道府県と共同で発表します。

<記録的短時間大雨情報>
現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、数年に一度程度しか観測しない雨量であることを知らせるために発表されるものです。

<顕著な大雨に関する気象情報>
非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。



4 住まいへの備え

台風・風水害に備えて、早めに住まいやその周辺の整備・点検をしましょう。

岡山県の災害リスクといざという時の行動

3 テロ・武力攻撃など

テロ・武力攻撃から身を守る行動

正しい情報を把握し、冷静な行動を

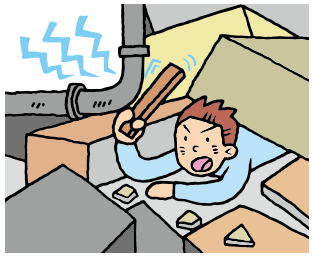
武力攻撃やテロなどが迫り又は発生した地域には、
市町村の防災行政無線や緊急速報メール等により注意を呼びかけます。
こうした事態に遭遇した場合には、正しい情報を把握し、冷静に行動することが大切です。
いざという時のために、日頃からどのように対応したらよいのか心得ておきましょう。

爆発が起こったら

- ●とっさに姿勢を低くし、身の安全を守りましょう。
- ●周囲で物が落下している場合には、落下が止まるまで、頑丈なテーブルなどの下に身を隠しましょう。
- ●その後、爆発が起こった建物などからできる限り速やかに離れましょう。
- ●警察や消防の指示に従って、落ち着いて行動しましょう。
- ●ラジオやテレビなどを通じて、行政機関からの情報収集に努めましょう。

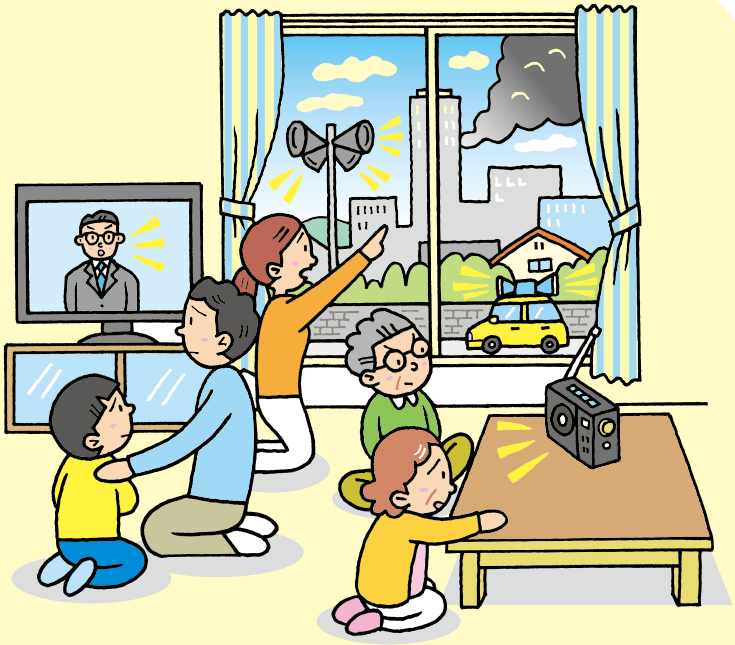
火災が発生したら

- ●できる限り低い姿勢をとり、急いで建物から出ましょう。
- ●口と鼻をハンカチなどで覆いましょう。



閉じ込められたら

- ●明るくするためにライターなどで火をつけないようにしましょう。
- ●動き回って粉じんをかき立てないようにしましょう。口と鼻をハンカチなどで覆いましょう。
- ●自分の居場所をまわりに知らせるために、配管などを叩きましょう。
- ●粉じんなどを吸い込む可能性があるので、大声を上げるのは最後の手段としましょう。



テロ攻撃からの避難

- ●突発的に被害が発生することも考えられるため、攻撃当初は一旦屋内に避難し、その後、状況に応じ行政からの指示に従って適切に避難しましょう。

ミサイル攻撃からの避難

- ●屋外にいる場合は、近くの堅ろうな建物の中や地下街などに避難しましょう。
- ●建物がない場合は、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守りましょう。
- ●屋内にいる場合は、窓から離れるか、窓のない部屋に移動しましょう。

化学剤や生物剤攻撃からの避難

- ●口と鼻をハンカチで覆いながら、現場から直ちに離れ、密閉性の高い部屋又は風上の高台などに避難しましょう。
- ●屋内では、窓を閉め、目張りをして室内を密閉し、できるだけ窓のない中央の部屋に移動しましょう。
- ●2階建て以上の建物であれば、なるべく上の階へ避難しましょう。
- ●汚染された服、時計、コンタクトレンズなどは速やかに処分し、水と石けんで手、顔、体をよく洗いましょう。

核爆発や放射能汚染からの避難

- ●すぐに遮へい物の陰に身を隠しましょう。近隣に建物があればその中へ避難しましょう。
- ●周辺に地下施設があれば地下へ移動しましょう。

岡山県の災害リスクといざという時の行動

避難先の検討

1 事前にハザードマップで自宅や職場周辺の災害リスクを把握しましょう。

2 ハザードマップで色が塗られていないところでも、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの場合は、市町村からの避難情報を参考に、必要に応じて避難しましょう。

3 浸水の危険があるところでも、マンションの上階など浸水する深さよりも高いところに住んでいて、周囲が浸水しても水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分にある場合は、自宅に留まり安全を確保する「屋内安全確保」も可能です。

4 安全な場所に身を寄せられる親戚や知人がいる場合は、避難所だけではなく親戚・知人宅への避難も検討しましょう。
また、ホテルや旅館も避難先の一つとして検討しておきましょう。

5 自分又は一緒に避難する人が避難に時間がかかる場合は、警戒レベル3が出たら速やかに避難しましょう。

命を守るための行動

立ち退き避難、屋内安全確保と緊急安全確保

避難情報が出たら、早めに安全な場所へ「立ち退き避難」することが原則ですが、ハザードマップ等で自ら自宅・施設等の浸水想定等を確認し、上階への移動や高層階に留まること等により、身の安全を確保することが可能な場合があります。この行動が「屋内安全確保」です。
また、危険な状況の中での避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。
危険が切迫している場合は、命を守るために最善の行動をとってください。

立ち退き避難（水平避難）
事前に決めた避難先への移動

屋内安全確保（垂直避難）

例えば

「屋内安全確保」を行うためには、少なくとも以下の条件が満たされている必要があります。

- 自宅・施設等がある場所が、家屋の倒壊・流失をもたらすような激しい氾濫の発生が想定される区域でないこと
- 自宅・施設等に浸水しない居室があること
- 自宅・施設等が一定期間浸水しても、水・食料等の備蓄があり、電気・ガス・水道・トイレ等が使用できなくなっても耐えられること

立ち退き避難が難しい場合

立ち退き避難を行う必要がある場合に、適切なタイミングで避難をしなかった又は急激に災害が切迫して避難することができなかった場合など、立ち退き避難を安全にできない可能性がある状況になってしまった場合に、命の危険から身の安全を可能な限り確保するため、より安全である場所へただちに移動することを「緊急安全確保」と言います。ただし、この行動は次善の行動であり、身の安全を確保できるとは限りませんので注意する必要があります。

避難時の服装

- ヘルメットや防災ずきんをかぶる：頭を落下物などから守る
- マスクの着用
- 子どもにも子ども用の非常持出袋を用意する
- 非常持出品はリュックに入れて背負う：両手が使えるようにする（非常持出品についてはP15を参照）
- 子どもには迷子札を
- 服装は長袖、長ズボンを着用する：材質は燃えにくい木綿などのものを
- 手袋（軍手など）を着用する：ガラスの破片などによる手のけがを防ぐ
- 靴は底が厚くて丈夫な、履きなれたものを：ガラスの破片などによる足のけがを防ぐ、靴擦れを防ぐ
  長靴は厳禁：水が入って重くなり、動きづらくなる可能性がある

避難所での生活

1 避難所はみんなで協力して運営しましょう

食料の配布やトイレ掃除など、やることはたくさんあります。みんなで協力して共同生活をしましょう。清潔を心掛けましょう。

2 避難所内ではお互いに譲り合いましょう

慣れない避難所での生活は大変ですが、そんな時だからこそ譲り合いの気持ちを持ちましょう。

3 避難所では要配慮者への配慮を

要配慮者（高齢者、障害のある人など）の特性に合わせ、別に避難スペースを設けるなどの配慮を行いましょう。

4 避難所では感染症予防の徹底を

避難所では、マスクの着用、手洗い、咳エチケットなどの基本的な対策や、定期的な換気、十分なスペースの確保などの感染症予防を徹底しましょう。

5 女性や子どもへの配慮

避難所では、多くの人が安心して過ごすことができるよう、女性や子どもに配慮した生活環境を考えましょう。

6 <支援者の方へ> むやみに物資を送らないようにしましょう

個人からの支援物資の受入は非常に手間がかかり、被災地に負担をかけます。義援金を送るなどの対応を考えましょう。